

業務用から小売まで
青果物の仲卸

株式会社
みどり
フレッシュ

店舗市場販売
強化中!!

カクト野菜
始めました!!

桐生地方卸売市場内
TEL.0277-77-1969

1世紀の風格を描く

桐高・桐女美術部員 桐生市重文の会館を絵に



思い思いの場所に陣取り、スケッチを進めた

同会館の完成は1919(大正8)年の12月。木造2階建て寄せ棟造りの瓦ぶきで、スパニッシュ・コロニア様式の意匠が特徴的で、2015年4月には桐生市から重要文化財の指定を受けた。

21年に統合し、新しい高校となる桐高と桐女の美術部員に、創建から100年がたつ桐生倶楽部会館の現在の姿を描いてもらおうと同倶楽部では両校に依頼、学校側と相談して準備を重ねてきた。

昨年12月25日、桐高美術部(演名美叶部長、部員3人、ほかに3年

6月の合同展で披露へ

県立桐生高校と桐生女子高校の美術部員が、100年前に創建された桐生倶楽部会館の絵画に挑んでいる。創立100周年記念事業の一環として、桐生倶楽部からの呼びかけに応じたもの。年の瀬には現地でス

桐生倶楽部

ケッチに取り組み、水彩画などを仕上げた。これをもとに、今後は油絵なども手掛ける予定で、6月には同会館を会場に、倶楽部主催の両校合同美術部展を開き、市民に作品を披露する計画だ。

創立100周年記念事業で



村田理事の案内で桐生倶楽部会館を見学する桐高・桐女の美術部員ら

1人)と桐女美術部(中根夏夏部長、部員11人)が桐生倶楽部会館に集合。同倶楽部理事で長期修繕計画委員長の村田勝俊さんに案内さ

れ、館の内外を観察した。瓦屋根の5本煙突が特徴的なスパニッシュコロニアル様式の風情や、創建当時の面影を残す設えをチェックすると、部員たちはさっそくスケッチブックを手に、好みの場所を見つけては構図をとり、鉛筆でスケッチ。ラフに、丹念に、それぞれのタッチで線を描き、水彩で色付けを進めた。同27日の鑑賞会では、写真では表現しきれない100年の時間経過を、個性豊かに表現した作品が並び、同倶楽部理事長の森壽作さんや村田さんらをうならせた。両校美術部の顧問を務める原澤和彦さんは「それぞれ質感がよく出ている」と、部員たちの観察眼を評価。

桐女美術部部長の中根さん(2年)は「全員初めて訪れた空間。内装などもおしゃれで、歴史を感じると話す。桐高美術部部長の演名さん(2年)も「初めて建物に入った」と話しており、今後どのような作品につながるのか、期待が膨らむ。

今の高校生の視点仕上がりを楽しみ森さんは「100年前の建物を、今の高校生がどんなふうを描くのか楽しみ。6月の展覧会では多くの市民に見てもらい、倶楽部への理解を深めてもらえたら」と希望を語っている。